

北広島市総合計画（素案）意見交換会【商工会】 会議録

■日 時 平成 21 年 11 月 25 日（水） 15:10～16:05

■会 場 商工会 2 階

■出席者数 22 名（男性 20 名、女性 2 名）

■市側 高橋通夫企画財政部長、木下信司総合計画課長、川村裕樹総合計画課主任

◆開 会

◆企画財政部長あいさつ

◆素案説明

【木下課長】 配付資料による総合計画（素案）説明

◆意見交換

【A】 少子高齢化が進む中、人口を増やしていく方法は考えていないのか。

【市】 検討をしている。国立社会保障・人口問題研究所が、平成 20 年 12 月に全国の市町村の人口推計を行った。今後 10 年間を見ても北広島市の人口は増える推計となっている。北海道内では数少ないまちの一つとなっている。しかし、最近の住民基本台帳の人口を見ると減っている。非常に危機感を持っている。人口を何人にするかということが直接のまちづくりにはならないが、いいまちをつくってたくさんの人に住んでもらうということが、総合計画の中で大きな目標の一つであると認識している。その施策がどこにあるかということは、まだ明確には記載されていないが、例えば子育てがしやすいとか、働く場があるなどが考えられると思う。これから原案を作成するに当たり、重点プロジェクトを設定し、その中で人口を増やす施策について盛り込んでいきたいと考えている。

【B】 北広島団地も高齢化が進み、子どもが少ない。そして小学校が統合される。北広島団地の活性化についてどのように考えているのか。各地区において状況は違うのかもしれないが、特に北広島団地について聞きたい。

【市】 現在、団地活性化検討委員会で検討されている。基本的には、北広島市の魅力を P R していくことや、現在住んでいる方は、このまま住み続けられること、団地の持っている魅力を保全していくなどを理念としている。現在北広島団地は、30%を超える高齢

化率となっている。高齢者が戸建ての住宅に住みづらい状況になってきているのも現実である。除雪など家を維持管理していくことが大変になってきている。そのため、住替えをどうやって支援していくかが大事になってくる。自宅を手放してシルバーマンションなどに移り住み、空いた住宅に若い人を呼び込む仕掛けを検討していかなければならない。それらをまとめて、12月7日に答申を受ける予定としている。答申の内容は、ホームページや市内公共施設で閲覧できるようにするのでご覧いただきたい。

人口については、全国的な傾向から見て、爆発的に増やすことは難しいが、少なくとも北広島市においては地の利や豊かな自然環境などを生かして少しずつ着実に成長していけるまちだと考えている。

【A】 新しい団地をつくる予定はないのか。

【市】 札幌圏都市計画では、来年3月に向けて市街化区域の見直しの作業を進めている。その中で可住地を拡大するという議論がなされたが、さきほどの推計では平成32年に人口のピークを迎えることになっているが、北広島市の市街化区域内の土地の利用率は70%強で、20%程度は市街化区域内で土地が利用されていない状況である。そういったことから、今回の見直しでは可住地の拡大は考えていない。工業系の土地が既に完売しており、今後も需要が見込まれることから、輪厚工業団地は今回の見直しの中で盛り込んでいる。市街化区域内の未利用地については、今後も市内外に積極的にPRをし、活用を促していくことが大切であると考えている。

【C】 北広島市の立地条件というのはとても素晴らしい。そういったことを市が積極的にPRをしていかなければ人口も増えていかないのではないのか。例えば大曲工業団地も発展しているが、働いている人達が住めるようなアパートやマンションを建てることで人口増につながっていくと思う。人口が増えればまちに活気が出てくるので積極的に推進してほしい。

【市】 工業団地内にマンションを建てるということは用途上難しい。団地活性化検討委員会でも話題になっていたが、北広島市に立地していただいた企業については、働いている人達にはぜひ北広島市に住んでいただきたいとお願いすることが大事なことで認識している。

【D】 北広島団地だが、高齢者を環境の良いところに移動させるというのではなくて、高齢者にとっても地の利や緑が多く環境が良いということを生かして、統合した後の学校施設も高齢者が活用できる「大人の学校」など、発想を変えて高齢者にとって住みよい環境を目指してはどうか。そういったことが進められると、我々商業者にとっても戦略がたてられる。人を入れ替えるというよりも、高齢者にとって住みよい環境を作り出し、

その中で不便な部分についてはある意味ビジネスチャンスが生まれてくる可能性もある。

【市】 団地活性化検討委員会の中でも議論されている。北広島団地を対象に行ったアンケートについては、このまま北広島団地に住み続けたいと考えている人は、6割から7割程度いた。市の考え方も、他へ出て行くことを促しているわけではなく、もし現在の場所に住み続けられない状況となった場合には、市内のシルバーマンションなどに移っていただいて生活を続けてほしいということである。現在は札幌市などへの流出が多い。また、現在の場所にこのまま住み続けたいと思っている人には、除雪や介護、交通の問題など市は色々な施策を講じていく必要がある。

【E】 大麻団地のような状況にならないようにしてもらいたい。また、市の遊休地の活用については総合計画の中でどうなっているのか。我々市民から見ると、活用されていない土地がありもったいないと感じている。民間に開放して貸すなり売るなりして活用してはどうか。

【市】 現在市が所有する土地については、処分できるものは処分を進めている。残っている主なところは、駅西口の団地事務所跡地や西部小学校の跡地、輪厚の墓地跡地などがある。

【E】 駅西口の土地は、現在の総合計画では商業地域としていたはずだがどうなっているのか。

【市】 面積が7千㎡と中途半端な大きさと、活用については課題となっている。民間への売却も検討していかなければならないのではないかと。市として新たな公共施設を建てるということでは面積が足りない可能性がある。現在は芸術文化ホールの臨時駐車場やふれあい雪祭りに利用されたこともあった。今後の活用については大きな課題だと認識している。

【E】 売るだけでなく、貸すということも検討してはどうか。

【市】 駅東口については、現在地区計画によって商業など業務系の土地利用に規制している。地区計画を見直しして、1, 2階部分を業務系にしてその上はマンションにするなどの検討を進めている。今日の経済情勢ではなかなか業務系の土地利用は難しい状況となっている。北広島駅前の顔としてふさわしい土地利用が図られるよう検討を進めていきたい。

【D】 産業廃棄物のリサイクルの推進について、リサイクル品の普及などはコストがかか

りなかなか浸透していないのではないか。単価は高くなるかもしれないが、市としてリサイクル品を率先して購入するなど促進していくべきではないか。環境問題やごみ減量化のためにもこうした意識を高めていく必要があるのではないか。そういった取組みに対して支援なども検討していくべきである。ごみが資源という意識を今後10年間の中で高めてもらいたい。また、子どもたちへの環境教育も進めていく必要がある。

【市】 今回提示している素案は、できるだけコンパクトにまとめたもので施策については主なものを掲載している。ご指摘の部分についてはぜひ力を入れていきたいと考えている。市民や子どもたち、市役所内部でもリサイクル品の使用に努めていく必要があると考えている。

【F】 若い人を呼び込むにはどうしたらいいのかという考えで人口増を目指すべきと考える。いいまちを作れば自然に人口が増えるというものではなくて、逆の発想で考えるべきだと思う。若い夫婦をこの程度集めるという目標のもとに、まちづくりをどうしていけばいいのかと考えてはどうか。そういった発想が必要ではないか。具体的な目標を持ってまちづくりを展開すべきである。

【市】 ご指摘のとおりだと思う。具体的な目標を持った中で、若い世代や高齢者にとっていいまちづくりを進めていきたい。

【F】 そのためにも具体的な目標が必要であろう。昔は人口を8万人にするために何をするというふうに、人口を一つのまちづくりの基本にして進めてきた。今度は、人口を何人にするということではなく、例えば若い人を1万人集めます、そのためにはどういったまちづくりを進めるべきかという発想が今後必要なのではないか。若い人達がいなければまちは活性化しない。生産性のある若い人達が増えなければ税収の減など色々と課題が出てくる。

【E】 北広島団地がどうしてこのような現状になったのか、原因を考えるべきである。原因の一つとして建ぺい率と容積率の問題があると思う。2世帯住宅が建てられないとかアパートが建たないとか。せつかく自然や緑が多い環境があるのだから、若い世代が入ってもらえるような都市計画を考えていただきたい。

【市】 建ぺい率と容積率については、難しい問題である。計画的につくった団地は、こういった現状になる宿命があると思う。日本全国でこういった状況が発生している。大麻、もみじ台でも同じような問題が発生している。2世帯住宅を建てられるように建ぺい率、容積率を緩和することによってどれだけ効果があるかだが、逆にそれを嫌って団地を出ていく人もいると考えられる。そういったことは団地活性化検討委員会のなかでも議論

されている。今の環境を変えるやり方と、保全していくやり方の二つの方法が考えられる。今住んでいる方は、今の環境を壊したくないと思っている方がアンケート結果では非常に多かった。そういった状況も踏まえて検討していかなければならないと考えている。

【E】 壊すか保全かということではなく、真ん中をとる方法もあると思う。一部大きな道路に面したところの都市計画を変更するなどしてはどうか。このまちの都市計画を全部変更することではない。

【市】 都市計画として現実的にできるかどうかという問題はあると思う。先日、素案の市民説明会を団地で行った時には、ある市民から北広島団地全体の環境について日本で一番素晴らしいと言っていた。都市計画の部分的な変更については色々な課題があると思うので理解していただきたい。

【B】 こういった説明会は年に何回か各地区を回って行っているのか。

【市】 10年に一度の計画なので、毎年は行っていない。

【B】 今日の説明会は大変勉強になった。ある程度の期間でまたやっていただければと思う。

【F】 審議会の中に、副会長が委員として入っているので、商工会の意見はそこを通して言ったほうがいいのであろう。

【市】 当然審議会の審議は重いものがあるが、それとは別に市民の方の意見も随時受け付けており、いただいた意見は審議会へ伝えることとしている。

◆閉 会